

うすい血の検査を受けて

滑川市 西加積支所 石田 昭子

昨年の5月、会合の場で、部長から、「今度富山県農村医学研究会が、農村婦人を対象に昭和47年より3ヵ年の計画で、血液の実態調査を行なう事になりました。これは、県の婦人部大会に於いて「献血にも適さないような、うすい血を追放しよう」と決議され、諸機関への働きかけによって実現されるものです。滑川市の場合には50名の人に、各支所より7名程度の方に検査の対象者をつのってほしい」とのお話が御座いました。最近農村の兼業化と共に、婦人部員の大半が、農外就労に走り過重労働のしわ寄せが、主婦の健康をおびやかす現状の中で、この様な計画は誠に結構な事と思いましたが、しかし多数の希望者が殺到するのでは予想に反し、〆切り間近かになっても定員に満たず、止むなく目ぼしい人を指命して、ようやく報告をすます有様でした。

6月6日、農協滑川病院の協力で、第1回目の検査が実施されました。集まった顔ぶれは、田植え上がりで日焼けした疲れた顔の人が多く、血液、尿、毛髪等の検査をすませた後「結果はいつ分るかしたら、待ち遠しい様な怖い様な」のささやきも聞かれました。

11月に入って結果の報告説明会があり、滑川地区の受検者の中に貧血症状のある人の割合があまりにも高い事を知らされ愕然としました。

この結果からして全体の農村婦人の中にも多くの貧血者がいる事が予想されます。

そこで早速、貧血対策について、過労も原因の1つである事、バランスのとれた食生活の大切な事等について話し合い、鉄分欠乏を補う為のレバー中心の料理講習等を行ないました。そして「自分が貧血であるという事を知る事が出来たのも、このような検査のおかげで本当に有がたい事で」という喜びの声も聞かれました。

何と言っても、明るい豊かな生活は、先ず健康な身体作りからだと思えます。

折角のこの様な検査も、調査だけに終わる事なく、今後も行なわれる調査の結果を見ながら、原因の究明と対策に、組織をあげてとり組み解決して行かなければならないと思えます。

最後に、この様な機会を与えて下さいました関係者の方々に心より感謝を申し上げ、今後の指導をよろしく願いますのでございます。